

令和6年度 飯田港東防波堤復旧技術検討会（第2回）

日時等：令和7年1月28日（火）10：00～12：00（WEB方式）

1. 主な議事

- 被災メカニズム解明に向けた数値解析、模型実験及び遠心実験に関する途中経過並びに飯田港東防波堤復旧方針（案）について、資料をもとに検討を行った。

2. 主な意見

（1）被災メカニズム解明

- 地震による防波堤の沈下はFLIP解析を行うとともに、解析結果とライブカメラ映像を照らし合わせて確認した方がよい。
- 模型実験に用いる津波の外力は、ソリトン波の最大と最低の水位差で定量的に再現できているかは確認した方がよい。
- 遠心実験で使用している粘性土地盤は、現地の粘土地盤と別と思うが、定量的な指標で両者が近似していると言えるのかを確認した方がよい。

（2）飯田港東防波堤復旧方針（案）

- 重力式区間のL型ブロック案については、前面の消波ブロックが衝突し損傷することはないか検討が必要である。
- 消波ブロック重量はL1津波よりも大きい冬季風浪を対象としているが、模型実験の結果も参考にブロック重量を検討する。

3. まとめ

被災メカニズムの検討については、本日の議論を踏まえ進めていく。飯田港東防波堤復旧方針（案）が了承され、この飯田港東防波堤復旧方針に基づき設計を進めていく。

－以上－